

共感

2004年10月、長野県東部の東御市で、高齢者も障害者も利用できる共生型施設をテーマにしたシンポジウムが開かれた。

富山市の富山型デイサービス「このゆびとーまれ」で撮影された写真が次々と大型スクリーンに映し出される。子どもをやすおばあちゃん、有償ボランティアとして働く障害のある男性…。壇上に立った惣万佳代子さん(53)は当時22歳、マイクを握って言った。

「このおばあちゃんは認知症です。上手に子守してくれるんですよ」

客席の後方で1人の男性が食いつい入るようにスクリーンを見つ

めていた。

「これだ」

岩井孝司さん(40)はつぶやいた。障害者の通所施設を辞め、

手で やさらかな

第2章 はたちの軌跡 14

自分が描いていた小回りの利く柔軟な施設を、惣万さんが既に始めていた。

◆◆◆

岩井さんはもともと福祉とは違った世界にいた。プラスチック成形の工場で働いていたが、

バブル崩壊によって会社の経営が悪化。希望退職に応募し、再就職先を求めて行き着いたのが

障害者施設だった。

施設では、利用者の思いに配慮されない現実悩む。「困っ

ている人をすぐ助けたい」と思

っても、「職員会にかけないと」

と言われ、迅速に対応しにくか

った。起業への思いが膨らんで

だ。惣万さんは全国を飛び回っ

て自分の考えを広めてきた。

岩井さんのように、富山型デ

ポなどの依頼が次々と舞い込ん

だ。惣万さんは全国を飛び回っ

て自分の考えを広めてきた。

岩井さんのように、富山型デ



このゆびとーまれを訪れ、惣万さん(右)と話す岩井さん
2012年11月



イの理念に共感する人は多い。このゆびが開所した1993年以降、講演やシン

話を聞いた福祉関係者や行政マンらは、自らの目で見たいと

富山型デイを見学。理念などを

学び、地元で同様の施設を開設

したり、補助制度をつくったり

した。

富山県によると、富山型(共生

型)デイは県内で92カ所、全国で

は千カ所を超えている。長野県

では「宅幼老所」という名称で、

2002年度から民家改修費な

どの補助制度が設けられ、岩井

さんに追い風が吹いていた。

岩井さんにとって、惣万さん

は先生のような存在だ。岩井屋

の開設後、2人は初めて直接会

って話をした。岩井さんはそれ

以来、ずっと慕っている。12年

11月にはスタッフを連れてこの

ゆびを訪れた。

広がる「惣万イズム」

◆◆◆

惣万さんからの激励に気持ち

を新たにしたい。

【21面に読者の声】

多様性

長野県東御市の富山型デイサービス「岩井屋」が開所して1

年が過ぎた2007年、施設長の岩井孝司さん(43)は年齢は当時21歳、思いを巡らせていた。「障害者の仕事を何かつくりたいかなあ」

岩井屋を利用する数人の障害者は、お年寄りと同じ中のお年寄りと同じと過ごしている。働くだけの体力があった。

そんな時、お年寄りとの会話の一つのヒントになった。「今はハウレンソウが旬ですね」「小さいころは稲刈り休みがあったね」。長野県は農家戸数全国一

を誇る農業県。畑や米作りの話題は自然と盛り上がった。「農園」というイメージが湧いた。

「ここを使わないか」

しばらくして、農園の話を目にした岩井屋近くの休耕田の所有者が提案してきた。かつて学

手で かな やわらかな

第2章 はたちの軌跡 15

に、農園をスタートした。



ただ、農業はそんな甘くはなかった。最初の1年は失敗の連続だった。農園を任せられたスタッフの高橋克也さん(39)は過去に農業法人に籍を置いていたが、分らないことだらけ。4人の障害者は農業経験が全くなかった。トマトの実はずっと小さく、ニンジンが発芽しない。困っていた時、助けてくれたのはデイに通うお年寄りだった。



岩井さん(手前右から2人目)と、収穫したハクサイを運ぶ利用者ら―長野県東御市

で倒れ、左腕と左足にまひが残ったが、福祉への情熱は消えていない。

統廃合で使われなくなった保育園の園舎で富山型デイを始め

販売を始めた。今ではハクサイやダイコンなど年間約40種類を栽培し、レストランへの出荷や東京での出張販売も行う。畑は6カ所に増え、スタッフ以外に、利用者約30人が携わる。毎月賃金も支払っている。作業に励む男性は「ようやくで

新しい富山型デイの形だ。「みんなが支え合えるのが富山型の良さ。地域の拠点として発展していけばいい」

山型デイを参考にした共生型施設は、全国に広がり、岩井屋のように地域に応じて、多様な変化を見せている。

高知県は、中山間地に「あつたかふれあいセンター」を整備し、誰でも利用できるサロンをはじめ、高齢者らの見守り訪問や買い物支援などを展開している。熊本県では「地域の縁がわ」という名称で、空き店舗や空き校舎を活用した居場所づくりが進んでいる。

惣万さんが掲げた「誰も排除しない」という理念は全国各地で確実に浸透している。

「富山型」地域で七変化

第2章おわり。第3章は3月上旬から始まります。

ちゃんが「先生」になった。

た。散歩がてら農園に来て、剪定の仕方や種のまき方を教えてくれた。おじいちゃんやおばあ

な野菜が実り、地元の道の駅で

きた野菜は自分の子どものように「だ」とやりがいを感じている。

岩井さんは11年12月、脳出血

惣万佳代子さん(61)創設の富善昭、報道センター・正平彰)

校農園として使われていた470坪の土地だった。岩井屋は8年春、障害者の就労支援を目的